

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第3回

前回の課題の確認

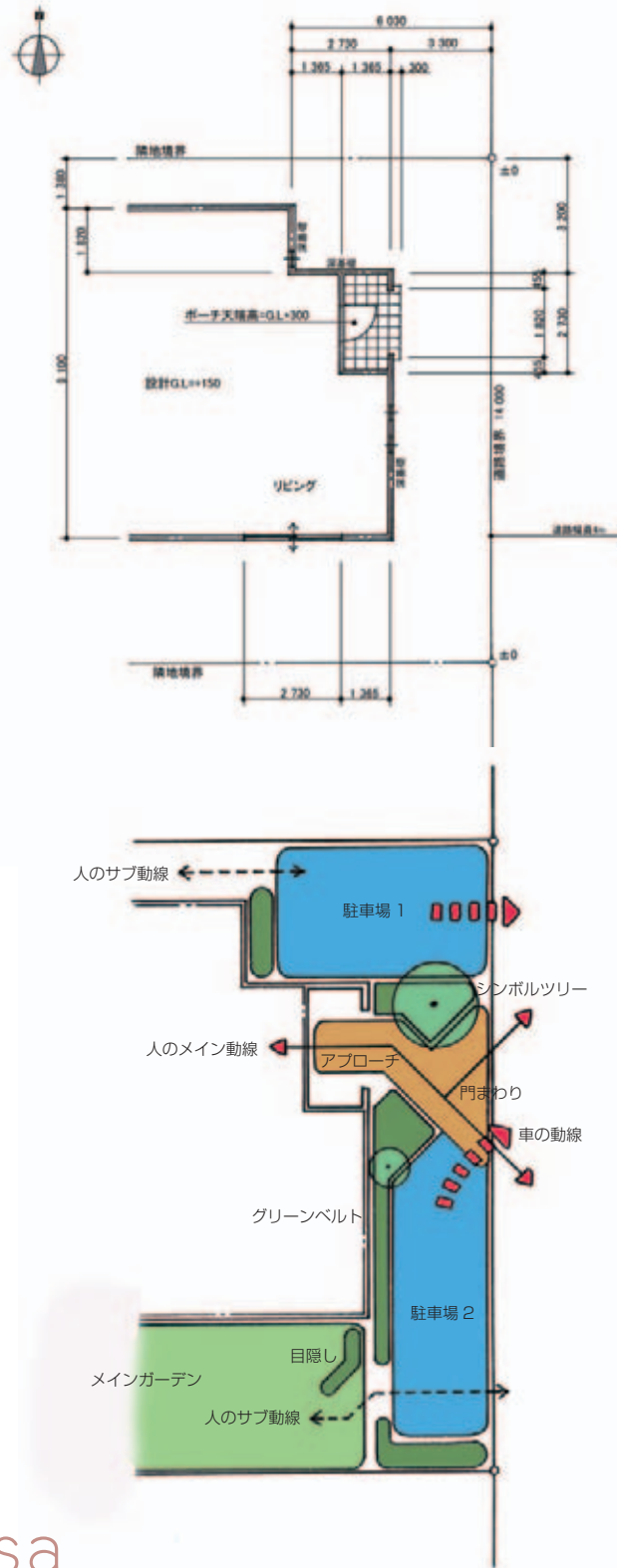
まず始めに、前回の課題の敷地条件について、もう一度確認をしておきましょう。
敷地の条件としては東入りのプランで、道路と敷地の高低差は150mmでした。道路面の間口寸法は14mで、施主の要望としては

- 東側のスペースに駐車場と門まわり、アプローチを提案して欲しい。
- 所有している車は1台だが、来客用も含めて2台分の駐車場が欲しい。
- 玄関ポーチは最上段のみ決まっているので、もう1段はアプローチと合わせて計画して欲しい。
- スタイルはオープンスタイルとし、植栽スペースを多めに確保して欲しい。
- 門袖又は門柱を設置して、ポスト、表札、インターホンを付けて欲しい。
- 玄関脇にあるリビングの縦長窓と道路の間に落葉樹を植えて欲しい。
- 駐車場(または道路)から南側の主庭への通路を確保して欲しい。

となっていました。みなさんはどのようなプランを考えられましたか?今回も模範プランを使って考え方やポイントを解説していくことにしましょう。

■ゾーニング

まず始めに駐車場のレイアウトを検討するわけですが、今回はメインガーデンのスペースを確保する目的で2台の車をL型に駐車するパターンを採用しました。
また、門まわりにも植栽スペースを確保し、ゆとりのあるプランにするため、駐車場2は南側隣地境界側へ寄せってみました。
アプローチにも変化をつけるため動線を斜めに配置し、南北どちらからも入りやすいよう道路に対して裾広がりイメージになるよう床を広く取っています。
道路からメインガーデンが丸見えにならないよう動線をクランクさせ、目隠しも提案したいと思います。



Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日:1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

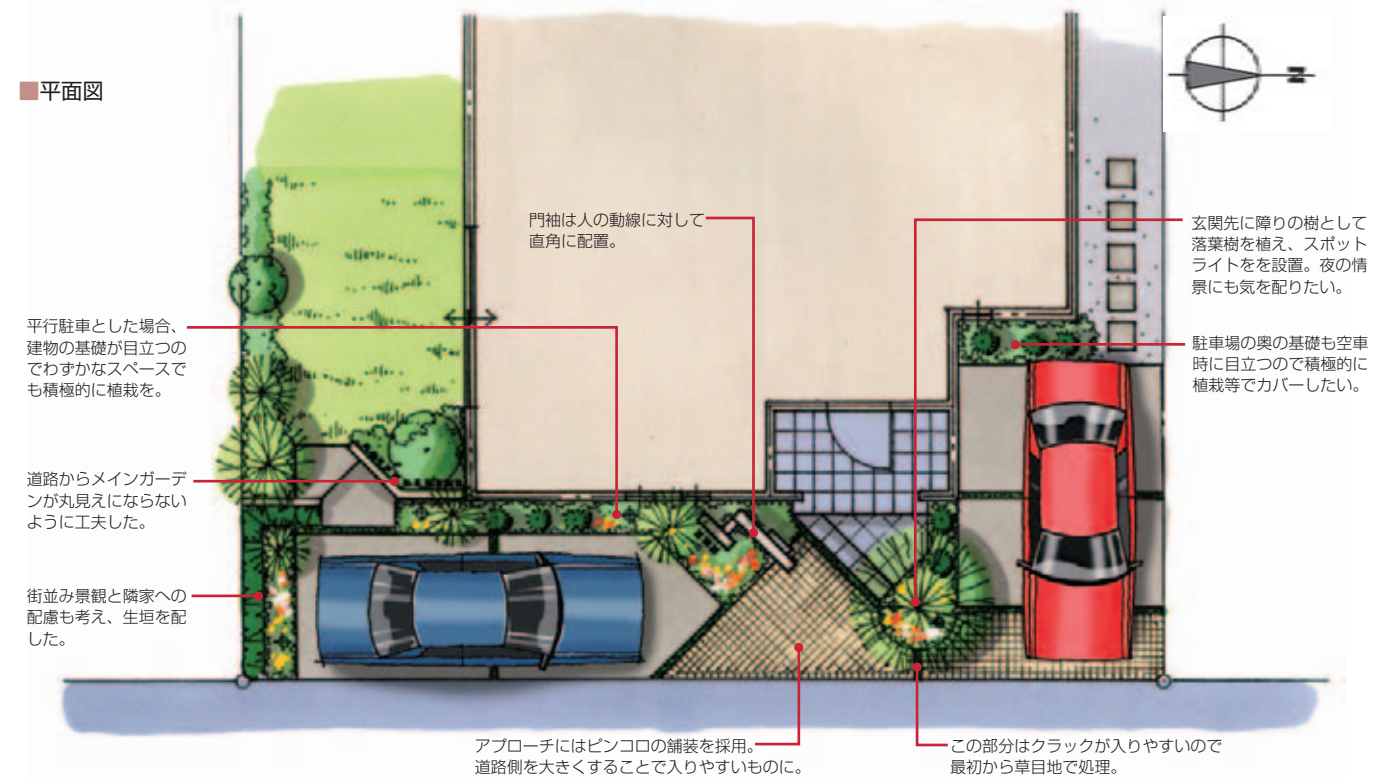
ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

■模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成しました模範プランをご覧ください。

立面図と比較しやすいように、便宜上平面図は西を上にして表示しています。2台分の駐車場とアプローチの床が目立つオープンプランですが、積極的に植栽スペースを確保することで、全体として柔らかい印象になるよう考えてみました。

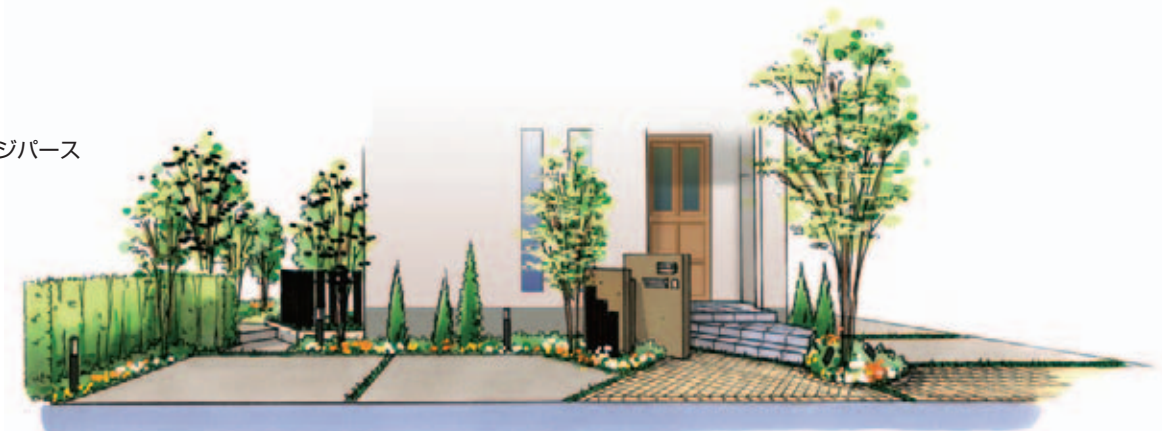
■平面図



■立面図



■イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にいただければ幸いです。